

足摺岬小・幡陽小・下ノ加江小の三校合同学習 第132震洋隊(土佐清水基地)フィールドワーク



↑土佐清水市立中央公民館多目的ホールでの講話の様子

11月12日(金)午後、土佐清水市立中央公民館3階の多目的ホールで標記の合同学習が開催された。この学習では、第132震洋隊(土佐清水基地)に関する講話、現地のフィールドワーク(格納壕見学)を実施した。この学習には、足摺岬小学校、幡陽小学校、下ノ加江小学校の5～6年生27名(2名欠席)と5名の引率教員が参加した。また、高知新聞清水支局・山崎支局長に取材いただいた。

講話では、生涯学習課市史編さん室の田村が担当。①「震洋」とは何か?②「震洋」が配備された背景。③第132震洋隊(土佐清水基地)の格納壕と兵員の数。④基地周辺での米軍の空爆や機銃掃射した事例。⑤昭和20年8月15日の第132震洋隊の話、翌8月16日の第128震洋隊(手結基地・香南市夜須町)で発生した爆発事故。

以上、①～⑤の事項について講話を進めていった。少し学習内容が多く、難しい言葉も多少あったが、参加している児童は、全員が真剣に、かつ熱心に学習することができていた。日頃からの担任の先生方の指導と取り組みによるところが大きい。



↑講話終了後、バスに乗り、市街地越地区に所在する震洋艇格納壕でフィールドワークした。

現地第 132 震洋隊(土佐清水基地)の格納壕のフィールドワークを実施した。この壕は、昭和 20 年(1945)6 月初旬から短期間に急ピッチで掘られた。先端に 250 キログラムの爆薬を搭載し、敵戦艦に体当たりする震洋特攻艇を格納するための壕である。西牧山の北麓約 500 メートルの区間に 20 壕が掘られた。落盤のため使用できたのは 15 壕であった。フィールドワークでは、当時の景観を復元することから始めた。越地区は、現在では埋め立てられ、西町や汐見町が形成された。当時は越湾であり、遠浅の海が広がっていた。壕を外から見学し、岩盤がもろいことや、短期間に 20 もの壕を掘ったことなどに驚きながら、学習を深めることができた。説明をする中で感じたことは、児童一人ひとりが真剣に学習できていたということである。今もその真剣なまなざしが臉に焼きついて離れない。この学習を次につなげてほしい。

※県政 150 年記念事業「学校パネル展」土佐清水市教育委員会内 から2枚の写真がパネル展示されます！

標記のパネル展が開催されるにあたり、三崎小学校の「戦時中の写真」「戦後の三崎浜での水泳大会の写真」の 2 枚の写真(三崎市民センター所蔵)がパネルとなり、下記の期間・会場にて展示されます。高知市に行かれたときには、是非一度ご覧いただきたいと思ひます。

〈期間〉 本年 11 月 11 日(木)～30 日(火)

〈会場〉 オーテピア 2 階

【編集後記】

今、自宅庭のサザンカが見頃。花壇の柚子が黄色く色づき始めた。いよいよ冬本番になろうとしている。先週から我が家でも炬燵布団を日干し、週末から使用し始めた。暑さにも、寒さにも弱い自分。

